



筑波大の中内靖准教授らは家庭内の無駄な消費電力を減らすシステムを開発した。家電の消費電力を計測できる電源コン

コンセント+センサー

二刀流で家庭省エネ

コンセントと家電に取り付けたセンサーで無駄な電力を把握。不要な待機電力を自動で切断したり、光の点滅や音声で効果的な省エネの方法を知らせたりする。民間企業と組んで商品化を目指す。

「インテリジェントタ
ップ」写真と名付け

不在時に自動切断 電気使いすぎ警告

たコンセントは、約60度の箱形で簡単な情報処理機能を持つ。センサーは温度や明るさ、振動などを測る能力があり、冷蔵庫やテレビなどに張り付けて使う。コンセントの電力消費量とセンサーの情報をもとに無線で送り、使用状況や人が

筑波大がシステム

在宅しているかどうかを把握する。電力使用量や無駄な箇所などをパソコンに表示するだけでなく、分析データを基に、人がいない時間帯などはコンセントをリモコン制御し、待機電力を自動でカット。人がある時間帯はセンサーがついたランプやマイクで、過剰に使っている電力を光や音で警告。省エネ行動を身に付けてもらう。実証実験では家庭内の光熱費を年間で1万円以上減らせると試算している。節約額を二酸化炭素(CO₂)排出量に換算し表示することで、地球温暖化対策に家庭も取り組みやすくなるという。大掛かりな工事も不要なことから普及を目指す。